

<PGI 学術講演抄録> ※無断転載を禁じます

コンポジットレジン修復のアップグレードを目指して

日本大学松戸歯学部保存修復学講座
教授 平山 聡司

一生涯自分の歯で噛みたい、いつまでもキレイな歯でいたいという患者の審美的要求は、多様化かつ高度化しています。その要求に応じていける修復材料としてコンポジットレジン（CR）の進化があります。

私が歯科医師になった 1985 年当時、CR 修復症例の半数は、未だ化学重合型で修復されていました。シェードはもちろん一色しか無く、接着システムもエナメルエッチング&ボンディングによるエナメル質接着のみで象牙質には全くと言っていいほど接着しない時代でした。それから約 30 年、接着歯学の進化は象牙質との確実な接着を実現させ、オールインワンのボンディングシステムが確立した今、比較的安定した臨床結果による恩恵を患者に与えることが出来るようになりました。そして、前臼歯にわたり CR の適応範囲は拡大し、セラミックス材料には無いハンディングの良さで審美治療の可能性が大きく広がる材料へと進化しました。

しかし、簡便化したボンディングシステムも、実際は術者の接着に関する知識や経験によって接着力に差が出る「テクニックセンシティブ」な材料であることを認識しなければなりません。「歯を出来るだけ削らないでキレイに治す」という MI の概念に基づいた CR 修復が、歯にやさしい治療であることを多くの患者さんが理解し、享受してもらいたいと思う反面、接着修復材料が急速に進化するあまり、それを十分使いこなすべき術者側の知識や技術が追い付いていかないケースが少なくありません。

患者の期待に応えるためにも、クオリティーの高い修復処置を提供できるよう日々学術的かつ技術的研鑽を行っていく必要があると言えるでしょう。

そこで本講演は、臨床家が最低限理解しておかなければならない接着の基本概念と審美的な CR 修復処置を可能にする前臼歯部の解剖学的形態を十分に考慮した充填と形態付与およびコンポジットレジン修復後の予知性に大きな影響を与える良好な接着と研磨について出来るだけ臨床に即して述べることにします。